



おぐら倉

校訓
自主
創造
協力



令和4年12月6日(火)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

数学補充学習の取組を開始しました！

全国学力・学習状況調査の結果を受けて、北九州市の中学生は数学の力が弱いことが分かりました。特に課題の見られた問題は、簡単な連立方程式を解く問題で、全国比-8.5ptでした。

課題改善に向けて、授業改善の視点として、「連立方程式を解く際、加減法や代入法、どちらの方法も一元一次方程式に帰着させて解くという考えに生徒自らが気付くように、解き方を比較しながら指導する」ことを目指していきたく考えています。

また、補充的な取組として、「知識・技能」の定着に向け、ドリルアプリ等を活用し、補充学習の充実を図ることが必要です。「ドリルアプリ等」とありますが、この課題解決に向け、北九州市教育委員会が作成した補充学習用の「数学科学力定着サポート問題集」を活用します。

尾倉中では、生徒に力を付け、中学生として進路(未来)を切り開く力を付けるために、「学びチャレンジタイム」を設定しました。目的は、① 補充学習で生徒が継続的に数学の学習に取り組むことができるようにする ② 継続的に取り組むことで、数学についての「思考力、判断力、表現力等」及び「知識及び技能」の向上、定着を図る ことです。具体的には、3年生は進路実現に向け、自分の苦手な分野に取り組むこととなります。1・2年生は基礎的・基本的な内容の定着を図ります。

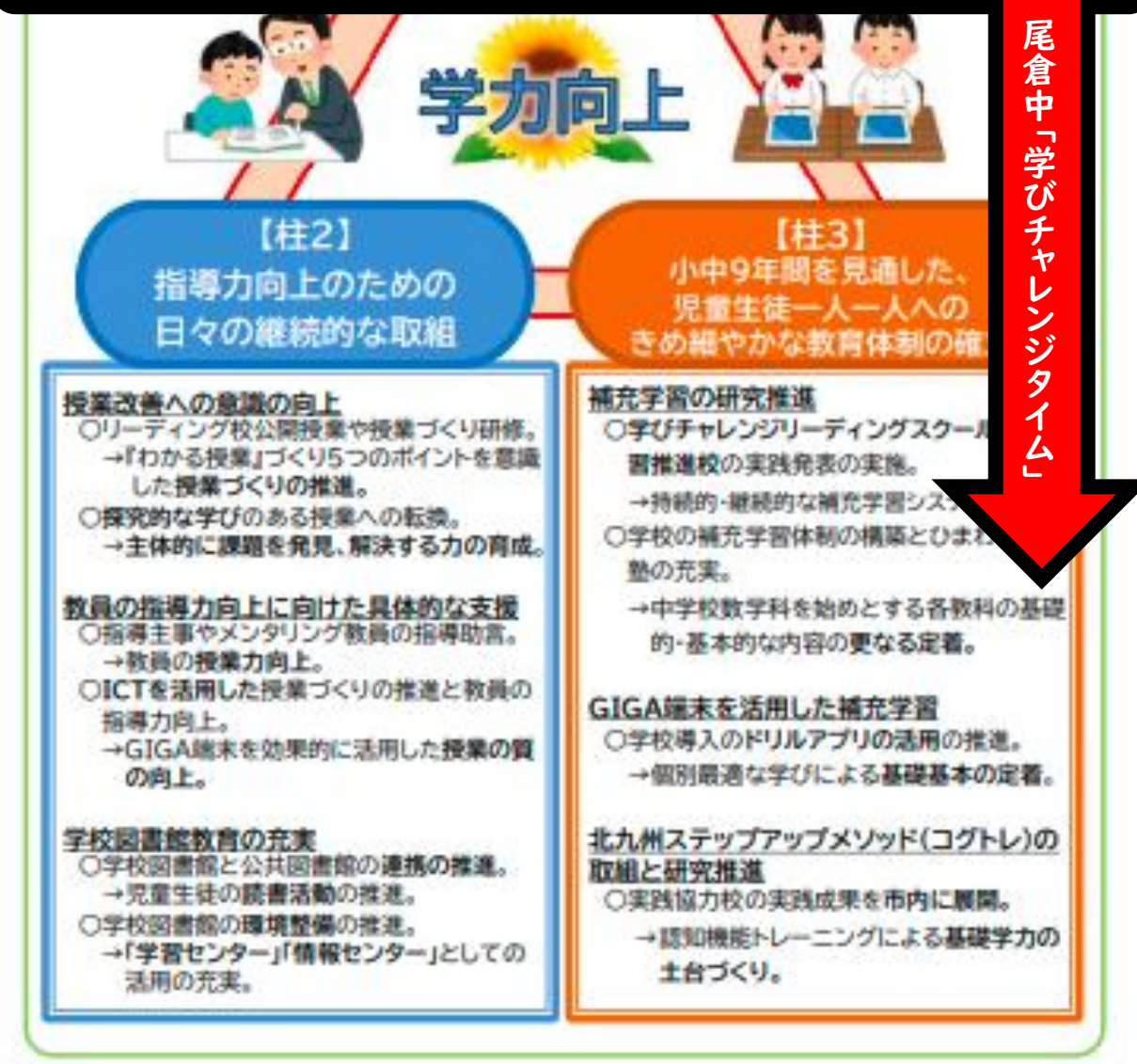
繰り返しますが、中学校における学力向上は、知識を身に付けることだけではなく、「進路を切り開く力」を身に付けることです。3年生になってからあわてるのではなく、1・2年生の時から、自分の将来や夢、目標を意識して学習に取り組んでほしいと思います。

12月1日(木)に実施した3年生の学びチャレンジタイムの様子を紹介します。基本的には生徒は自分の課題を見つけて取り組みますが、数学科の教員をはじめ、学年の職員全員でサポートしていきます。



全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた今後の取組

(北九州市教育委員会令和4年度全国学力・習状況調査報告書より抜粋)



尾倉中「学びチャレンジタイム」

この数学の補充学習の取組を通して、他の教科における補充学習の充実、ICT 機器(GIGA 端末)の活用など、生徒一人一人へのきめ細かな尾倉中の教育を確立していきたいと考えています。さらに、「お互いに学び合える」良好な学習環境の創造に向け、SDGs教育(質の高い教育をみんなに)の推進、学びの基盤づくり(いじめ・不登校対策、人権意識に基づく相互理解)について共通理解を図ります。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、私たち教員がスクラムを組み、生徒のために「分かる授業」を創造していきたいと思っています。

今回は3年生の取組を紹介しましたが、1・2年生については、後日学校通信でお知らせします。子どもたちの「教え合い」「学び合い」の姿が紹介できると幸いです。